

厚別区防犯ネットワーク通信 (vol.2)

H25・1 厚別区防犯ネットワーク事務局 ☎ 895-2419

ボクの名前は「みまも郎」。ネットワーク通信のナビゲーターという役どころです。名前の由来は皆さんのご想像にお任せします。では、通信スタート！！



今回のテーマ

👁️ 犯罪の被害者との向き合い方

…不幸にして被害者になってしまった人に、私たちはどう接すればよいのでしょうか。残念ながら誰もが被害者になる可能性がある以上、避けては通れない問題です。

このテーマに対して、防犯ネットワークでは以下の活動を行いました。

- 10月15日…防犯研修会（外部講師を招いた講演会）
- 11月26日…防犯ネットワーク会議



（講師のお話に関心しました）



気になるお話の内容は次のページへ！



善養寺 先生

先生にお話を伺いました

「犯罪被害者に遭ってしまった人にどう接すればいいのだろう…」
防犯ネットワークでは、この難しい問題に、この分野の専門家である (社) 北海道家庭生活総合カウンセリングセンター副理事長の 善養寺 圭子 先生にお話を伺いました。(善養寺先生は、個別カウンセリングから講演会活動まで、被害者支援に精力的に取り組んでおられる方です。10/15 と 11/26 の講師も務めていただきました。)

質問：犯罪被害に遭うと、人はどうなってしまうのでしょうか。

先生：被害に遭った人はPTSDになると考えられていましたが、例えば東日本震災後は10人中7, 8人は自力で回復しており、残り2, 3人が医師による治療が必要であることがわかっています。

質問：回復する場合も多いのですね。

先生：回復するといっても、被害にさいなまれながらも工夫して被害と一緒に生きているというのが実情です。

質問：私たちがつらい思いを抱えた被害者と接するとき、気を付けるべきことはありますか。

先生：2次被害というものがあります。メディアや学校、職場のほか、医師が良かれと思っ
て行う事がマッチせず、被害が起こる場合があります。

質問：誰もが加害者になってしまう可能性があるとは。

先生：2次被害は家族の中から受けることもあるのです。1つの被害によって、家族の中
からとげとげした雰囲気が出る場合があります。

質問：加害者にならないために、心がけることはありますか。

先生：PTSDを理解すること、価値観の押しつけを避け、聞く側に回り、被被害者の言葉
に耳を傾けることが必要ですね。

質問：子どもが被害者になってしまったときは、どうすればよいのでしょうか。

先生：子供が被害を受けたとき、親の介入にあたって必要なことは、大事なことはすぐには
決めないということです。

ふーん。難しいけど、
ためになる話ですね。



お話を受けて

2次被害は、誰もが加害者になる可能性があるということで、気を付けなければならないことがよくわかりました。でも必要以上に神経質にならないよう、先生は「普通に自然にが鉄則」ともおっしゃっていました。少しずつ日常を取り戻していき、「大事なことはすぐには決めない」で、ただ「一緒に佇む」ことなんですね。

善養寺先生、貴重なお話をありがとうございました！